

平成 21 年度第 2 回評議員会議事録

1. 日 時：平成 22 年 3 月 14 日（日） 10：30～15：00

2. 場 所：東京都夢の島マリーナ 2 階会議室

3. 出席評議員（順不同・敬称略）：

(加盟団体) 北海道セーリング連盟：浜田賢、青森県セーリング連盟：浅利正、岩手県ヨット連盟：長塚奉司、宮城県セーリング連盟：勅使河原栄幸(委)、山形県セーリング連盟：齋藤和久、福島県セーリング連盟：広田喜世人、外洋北海道：小澤貢一(委)、外洋津軽海峡：荒山雅仁、外洋いわき：織田好孝(委)、茨城県セーリング連盟：朝田耕平、群馬県セーリング連盟：中川淳、埼玉県セーリング連盟：谷正安、千葉県セーリング連盟：斉藤威、東京都ヨット連盟：鈴木修、神奈川セーリング連盟：末木創造、山梨県セーリング連盟：羽田定造、新潟県セーリング連盟：細井房明、長野県セーリング連盟：横山真(委)、NPO 静岡県セーリング連盟：中嶋浩二郎、外洋東京湾：大村雅一、外洋三崎：川久保史朗(委)、外洋三浦：平松隆(委)、外洋湘南：榛葉克也、外洋東関東：小屋忠文(委)、愛知県ヨット連盟：森信和、三重県ヨット連盟：横田昌訓、岐阜県ヨット連盟：伊藤和典、外洋東海：大島茂樹、富山県セーリング連盟：番匠茂、石川県セーリング連盟：石倉喜八朗(委)、福井県セーリング連盟：高間博之、京都府セーリング連盟：武市進作、外洋近北：守本孝造、兵庫県セーリング連盟：川上宏、奈良県セーリング連盟：安澤厚男、和歌山県セーリング連盟：山本嘉一(委)、外洋内海：妹尾達樹、鳥取県セーリング連盟：富田博司、島根県ヨット連盟：大西和彦(委)、NPO 岡山県セーリング連盟：山崎昌樹、(財) 広島県ヨット連盟：谷口正浩、(社) 山口県セーリング連盟：藤岡悍、外洋西内海：永沼勝也(委)、香川県ヨット連盟：齋藤修(委)、愛媛県セーリング連盟：黒川重男、高知県セーリング連盟：文野順夫、福岡県セーリング連盟：岩瀬広志(委)、佐賀県ヨット連盟：松山和興、長崎県セーリング連盟：古賀誠次、熊本県セーリング連盟：本田肇、宮崎県セーリング連盟：樋口宗司、鹿児島県セーリング連盟：大迫哲弘(委)、沖縄県セーリング連盟：有銘兼一、外洋玄海：高木政一(委)、外洋南九州：宇都光伸

(特別加盟団体) 全日本学生ヨット連盟：杉山嘉尚、(財) 全国高等学校体育連盟ヨット専門部：澁谷有人(委)、(社) 日本ジュニアヨットクラブ連盟：中根健二郎、全日本実業団ヨット連盟：外尾竜一(委)、全日本自治体職員ヨット連盟：小宮三雄、日本ヨットクラブ連盟：中瀬昭、日本 470 協会：五味克博(委)、日本シーホッパー協会：九富潤一郎、日本レーザークラス協会：福井洪一、日本ウィンドサーフィン連盟：千葉貴生(委)、日本スナイプ協会：桑野安史(委)、日本シーホース協会：蛭子井貴、日本ドラゴン協会：山村尚史、日本 49er クラス協会：高野学(委)、東京ヨットクラブ：平生進一、淡輪ヨットクラブ：太平洋和(委)、(社) 関西ヨットクラブ：猪上忠彦(委)、南北海道外洋帆走協

会：石川彰、葉山マリーナヨットクラブ：大野稔久(委)、福岡ヨットクラブ：白石元英(委)、(社)江ノ島ヨットクラブ：星野博正(委)、シーボニアヨットクラブ：才藤滋、徳島ヨットクラブ：久岡卓司(委)、日本ヨットマッチレース協会：伊藝徳雄(委)、NPOヨットエイドジャパン：岩瀬喜貞(委)、日本視覚障害者セーリング協会：秋山淳、日本ミニトン協会：山田忠雄(委)、日本 J24 協会：畠山知己、琵琶湖ヨットクラブ：青木英明(委)

以上、出席 84 名 (内、委任状出席 30 名)

欠席評議員 (順不同・敬称略)：秋田県セーリング連盟：佐藤利秋、栃木県セーリング連盟：森谷茲允、外洋駿河湾：山田良昭、滋賀県セーリング連盟：江口恒信、大阪府ヨットセーリング連盟：岩崎洋一、徳島県ヨット連盟：石井良直、大分県セーリング連盟：後藤督、日本 FJ 協会：古屋勇人、日本 OP 協会：国見悦朗、日本テザー協会：本吉讓治、大阪北港ヨットクラブ：吉田敬一

以上、欠席 11 名

その他出席者 (順不同・敬称略)：

会長：山崎達光、副会長：河野博文、秋山雄治、西岡一正、植松眞、専務理事：前田彰一、常務理事：青山篤、児玉萬平、理事：斎藤渉、小山泰彦、松原宏之、山田敏雄、倭千鶴子、庄司一夫、小山利男、外山昌一、柴沼克己、山下記誉、中村公俊、吉留容子
監事：高木神学、浪川宏、栗原博
顧問：米澤一、小田切満寿雄
委員会：昇隆夫国体委員長、水谷益彦普及委員長、豊崎謙広報委員

以上、その他出席 28 名

4. 議事の経過および結果

(定足数の確認)

評議員 95 名中、出席 84 名 (内委任状 30 名) で、寄附行為第 34 条 5 項に基づく定足数を充たしており、本会は成立した。

(議長の選出及び議長の開会宣言)

寄附行為 34 条 3 項に基づき、議長の選出を行った。議長は畠山知己評議員に決定し、平成 21 年度第 2 回評議員会の開催を宣言があった。

(議事録署名人の任命)

本会の議事録署名人は議長指名により、末木創造、大村雅一の両評議員が任命され、承認された。

(山崎会長挨拶)

平成 22 年度連盟の取り組むキーワードは、昨年同様「普及」「文化」「勝利」に要約される。普及活動を促進することでメンバー増強をはかり、連盟財政の健全化を図る。セーリング文化はシーマンシップに集約される。勝利は、オリンピックでのメダル、アメリカズカップへの参加、国体の成功、世界選手権の開催である。世界に海洋国日本として誇れるようにしていきたい。本評議員会での重要案件等の審議をお願いしたい」との挨拶があった。

5. 審議事項

1) 平成 21 年度第 2 次補正予算 (案)

斉藤理事から資料に基づき、平成 21 年度第 2 次補正予算 (案) について説明があった。

平成 21 年度 1 次補正予算策定 (平成 21 年 5 月理事会) 後に確定した収支および見込金額が変更となる収支を反映するため、2 次補正予算を策定した。一般会計収入は、176,084 千円 (対 1 次補正予算比 16,494 千円増)、支出は 170,603 千円 (同 16,743 千円増)、当期収支差額は 5,481 千円 (同 249 千円減)。1 次補正予算対比での主な変更点は、賛助会費収入の増加が見込まれるため、4,000 千円から 6,000 千円に修正した。加盟団体負担金 (メンバー会費) 収入は、実績ベースとして 3~5%減少していることを考慮して、57,000 千円から 54,000 千円に修正した。協賛金収入 (日建レンタコム) および同支出については、確定したため、15,000 千円を新たに計上した。表彰費は、当期は H22 年 3 月にも表彰を実施するため、100 千円から 550 千円に修正計上した。カレンダー販売収支は、販売価格、制作価格とも前年比で値下げした。物品販売収支は、販売価格、制作価格とも前年比で値下げした。モバイル端末代金収支は、3 カ月分 (192 万×3=576 万円) の増加が見込まれるため、修正計上した。ルール関係文書制作費は、A 級・B 級ジャッジ資格認定証の発行費用を計上した。ジュニアアカデミー委員会は、日本財団助成事業収支：当期見込事業費が減少するため、修正計上した。

オリンピック特別会計は、平成 21 年度 1 次補正予算策定後に確定した事業収支を反映するとともに、スポーツ振興基金等で変更決定があったため、2 次補正予算を策定する。収入は、170,467 千円 (対 1 次補正予算比 32,373 千円増)、支出は 167,813 千円 (同 19,787 千円増)、当期収支差額は 2,653 千円 (対 1 次補正予算比 12,585 千円増)。対 1 次補正予算からの主な変更点は、スポーツ振興基金助成事業として、チーム派遣 (49er ワールド、アジア選手権、RS-X マイアミ) などが認められた。TOTO 助成事業についても、調査・研究事業などが認められたとの発言があった。

平成 21 年度第 2 次補正予算 (案) は同意された。

2) 平成 22 年度事業計画 (案)

前田専務理事から資料に基づき、平成 22 年度事業計画 (案) について説明があった。

平成 22 年度 JSAF 実行計画と基本方針を以下の通りとする旨、発言があった。

実行計画

1. JSAF 財政健全化プロジェクトの実施
会員増強に向けた総合的な普及計画の検討
2. JSAF 増収に向けた事業委員会の積極的な取り組み
3. 国際セーリング競技規則普及のため選手・指導者向けなど講習会の開催
4. IHC セール計測システムの開始に伴う JSAF としての資格取得
5. ジュニア普及強化のためのセーリング・アカデミーの実施
6. ナショナル・トレーニング・センター(和歌山)の活用
各地 JOC 強化拠点との連携
7. 外洋レースの活性化、組織強化および艇登録推進
沖縄ー東海レースの開催、東アジア地区 IRC 計測セミナーの開催
8. 公益法人移行検討プロジェクトの取り組み開始
9. ロンドン・オリンピック(2012 年)に向けた選手強化
10. 海の日キャンペーンなど環境問題への積極的な取り組み

基本方針

普 及

会員の増強 加盟団体や特別加盟団体との連携、大学やクラブ OB の勧誘
組織の確立 継続性の検討(高体連・学連・一般)、指定管理者制度の促進
財政健全化 財政健全化推進策の実施、増収対策検討、賛助会員の獲得

文 化

指導者育成 ジュニアの指導、スポーツマンシップとフェアプレー
広報活動 戦略的な広報活動、外洋レースや地方のレースなどの広報
環境活動 海の日キャンペーン、全日本大会での環境思想普及
特徴あるレース 地方メディアとの協力など

勝 利

2012 年ロンドンオリンピックでのメダル獲得に向けた活動
ジュニアおよびユースに対する競技力向上のための活動
千葉国体および山口国体リハーサル大会の成功
ナショナルトレーニングセンターの活用

京都府セーリング連盟の武市評議員から、連盟の組織は加盟・特別加盟団体の下に、学校・企業・個人で形成されていることを前提に、①メンバー登録について学生登録について、原則的に学校の所在地がある都道府県連でお願いしたい。②メンバー証発行は、

年度当初にまとめて発送することは改善していただきたい。③JSAF カレンダーについてメンバーが喜ぶカレンダーにしてほしいとの要望があった。

前田専務理事から、学生の県連登録について全日本学連との話合いで、大学ヨット部の歴史があり、それぞれで登録県連を選択させて欲しいとの要望があった。メンバー証発行については団体メンバー登録担当者の強い希望によるものである。カレンダーについては事業開発委員会と話をし、との説明があった。

愛知県ヨット連盟の森評議員から、登録したが半年間もメンバー証が発行されないことがあったが、年度当初にまとめて発送は各団体が対応すれば問題ないとの発言があった。

平成 22 年度事業計画（案）は同意された。

3) 平成 22 年度予算（案）

斉藤理事から資料に基づき、平成 22 事業予算（案）について説明があった。

一般会計収入は、158,882 千円（対、平成 21 年度 2 次補正予算案比 17,202 千円減）、支出は 156,128 千円（同 14,475 千円減）、**当期収支差額は 2,754 千円（同 2,727 千円減）**を計上した。平成 21 年度 2 次補正予算案との比較において、主な変更点は、賛助会費収入は、前年度実績数字を維持するものとして計上した。加盟団体負担金（メンバー会費）収入は、前年度 2 次補正予算案比 100 万円増を計上した。オリンピック基金広告収入およびオリ特繰入金支出は、見込額に合わせて減額した。表彰費は、前年度実績を踏まえて計上した。モバイル端末代金収支は、平成 21 年 6 月から 24 ヶ月契約のため、23,040 千円（192 万円×12 ヶ月）を計上した。ルールブック関係収支は、当期は減少が見込まれる。ジャッジ認定料関係収支は、当期は増額が見込まれる。バッチテスト登録料収入は、当期は増加が見込まれる。ジュニアアカデミー委員会日本財団助成事業収支は、前年度見込金額を考慮し、H22 年度事業計画及び事業費 5,700 千円を提出した。外洋計測委員会 IRC 証書発行関係収支は、IRC 取得の艇の増加を見込み 8,000 千円とした。外洋安全委員会講習会料は、安全規則の運用の変更などについて講習会等を行うため 1,400 千円、講習会支出 1,100 千円を計上した。

オリンピック特別会計収入は、166,368 千円（対、平成 21 年度 2 次補正予算案比 4,099 千円減）、支出は 172,860 千円（同 5,146 千円増）、**当期収支差額は▲6,491 千円（同 9,145 千円減少）**。新規事業として、スポーツ振興基金によるチーム招聘事業、TOTO 助成事業による調査研究事業等を計画している。

免税募金特別会計免税募金収入は、寄付金等の見込額 17,410 千円を計上した。

環境委員会特別会計事業活動収入は、寄付金等の見込額 3,756 千円を計上したとの発言があった。

平成 22 年度予算（案）は同意された。

6. 報告事項-1

1) 平成 22・23 年度評議員の選出

前田専務理事から資料に基づき、平成 22・23 年度評議員選出について報告があった。
平成 21 年度通常第 2 回理事会において承認されたとの発言があった。

2) 平成 22 年度 JSAF 行事予定 (案)

前田専務理事から資料に基づき、平成 22 年度 JSAF 行事予定 (案) について報告があった。

3) 平成 22 年度 JSAF 組織の変更

前田専務理事から資料に基づき、平成 22 年度 JSAF 組織の変更について報告があった。競技力向上委員会からジュニアユース育成・強化委員会に委員会名を変更するとの発言があった。

4) 公益法人移行検討プロジェクト

庄司理事から資料に基づき、公益法人改革 3 法施行への対応について報告があった。JSAF 公益法人移行検討プロジェクトでは、「4 つの基本方針」(移行先法人、申請時期、定款変更回数、最初の評議員選任方法) の仮決定をする。①移行先法人は、日体協・JOC の対応方向を踏まえ、公益財団法人を移行先法人として仮決定する。②移行 (申請) 時期は、平成 24 年 3 月を目標とする。③定款変更回数は、定款変更作業の工数軽減のため、1 回方式とする。④最初の評議員選任方法は、内閣府公益認定等委員会事務局通知とおり、評議員選定委員会方式とするとの発言があった。

5) JSAF 規程の改定 (RRS 関連)

大村ルール副委員長から資料に基づき、ルール委員会活動報告があった。

①ルール関連資料の翻訳・発行は、セーリング競技の根幹である競技規則の翻訳をメンバーにタイムリーな提供をしている。本年 1 月で RRS の改正があった。②ルール講習会の開催は、選手・指導者へルールの浸透を図っている。③ナショナルジャッジ・アンパイア講習会の開催により、各資格の養成ならびに国内レースの質の維持・向上を図っている。④国内大会プロテスト委員の派遣を行っている。⑤日本セーリング連盟規程 (JSAF 規程) 改定があった。⑥指導者向けのルール講習会は好評であったとの発言があった。

7. 報告事項-2

各委員会報告は資料のみ提示。

8. 平成 21 年度連盟定期表彰

平成 21 年度連盟表彰があった。功労賞に、中山明氏・瀬川洸城氏・小川勝氏。優秀指導者賞に、田中耕司氏。優秀競技者賞に、原田龍之介氏・吉田雄悟氏（2009 年 470 級世界選手権 3 位）、富沢慎氏（2009 年東アジア選手権 RSX 級優勝）、若林友世氏（レーザーユースワールド 2 位）、村山仁美氏（レーザーユースワールド 3 位）、木山典彦氏・稲田健一氏（2009 年ジュニアスナイブ級ヨット世界選手権 2 位）、佐藤浩章氏・村岸泰明氏（2009 年レーザー級世界選手権 3 位）、西岡一正氏（トランスパックレースディビジョン 3 位）、植松眞氏（NYYC インビテーションナルカップ 3 位）。また感謝状に、白幡寛氏・山辺忠厚氏・井上洋一郎氏・松山和興氏・大谷たかを氏・山下大輔氏・鈴木國央氏・本吉讓治氏を表彰した。

9. 加盟団体・特別加盟団体報告

- 1) 北海道セーリング連盟の浜田評議員から、指定管理者について取り組んでいる。鹿屋体育大卒業生が室蘭 B&G に就職したとの発言があった。
- 2) 青森県セーリング連盟の浅利評議員から、A 級ジャッジが 1 人合格した。東北インターハイに向けて取り組むとの発言があった。
- 3) 岩手県ヨット連盟の長塚評議員から、来週東北セーリング連盟総会がある。来年インターハイを宮古で開催予定であるとの発言があった。
- 4) 山形県セーリング連盟の齋藤評議員から、次年度から中学生のヨット部の大会があるので、支援を願いたい。昨年、イタリアの F J の世界選手権で逗子開成高校ヨット部員が優勝したとの発言があった。
- 5) 福島県セーリング連盟の広田評議員から、シングルハンダー選手などが流出してしまった。ふるさと選手で国体参加を願いたいとの発言があった。
- 6) 外洋津軽海峡の荒山評議員から、津軽海峡横断レースに参加の呼びかけがあった。
- 7) 茨城県セーリング連盟の朝田評議員から、霞ヶ浦ヨットハーバーが危機的な状況にある。親子ヨットスクールが講評だったとの発言があった。
- 8) 群馬県セーリング連盟の中川評議員から、高校生女子選手も卒業となる。ふるさと選手で国体参加したいとの発言があった。
- 9) 千葉県セーリング連盟の斉藤評議員から、本年の千葉国体では、マリンスタージアムでの総合開会式があるので、選手・監督に出席をお願いしたいとの発言があった。
- 10) 東京都ヨット連盟の鈴木評議員から、2016 年東京オリンピック招致は残念な結果に終わった。2020 年に再チャレンジしたいとの発言があった。
- 11) 埼玉県セーリング連盟の谷評議員から、渡良瀬遊水地で活動している。残念ながら、北川辺高校が統廃合になったとの発言があった。

- 12) 神奈川セーリング連盟の末木評議員から、江の島ヨットハーバーの改築が始まる。唐津や和歌山のように江の島も今後世界選手権大会を開催していきたいとの発言があった。
- 13) 新潟県セーリング連盟の細井評議員から、昨年新潟国体開催の御礼があった。国体会場の施設を利用し、また活動を活発化したいとの発言があった。
- 14) 外洋東京湾の大村評議員から、トウキョウズカップでは三宅島からのコースもあるので、参加していただきたいとの発言があった。
- 15) 外洋湘南の榛葉評議員から、台風 18 号で大きな被害があった。花の大島レースに参加の呼びかけがあった。また、マッチレースも葉山で開催しているとの発言があった。
- 16) 愛知県ヨット連盟の森評議員から、海陽での宿泊先である四海波が倒産した。台風で棧橋と階段が飛ばされたが、復旧間近であるとの発言があった。
- 17) 三重県ヨット連盟の横田評議員から、ジュニアや高校生が育っていない。水谷氏の功労賞を推薦したい。また、佐藤三郎氏が定年でハーバー勤務となるとの発言があった。
- 18) 岐阜県ヨット連盟の伊藤評議員から、再来年、海陽で岐阜国体を開催する。30 年余り評議員を務めたが引退するとの発言があった。
- 19) 富山県セーリング連盟の番匠評議員から、昨年は全日本ドラゴン選手権大会を開催した。毎年一回は全日本レベルのレースを開催したいとの発言があった。
- 20) 福井県セーリング連盟の高間評議員から、平成 30 年に国体開催が内定している。ジュニアの活動は、大飯町で活発であるとの発言があった。
- 21) 京都府セーリング連盟の武市評議員から、同志社ウィークが開催中である。高校生のレースなどを増やしている。柳ガ崎ハーバー廃止は、滋賀県連が指定管理者になり調整しているとの発言があった。
- 22) 外洋近北の守本評議員から、琵琶湖の活動が中心で、6 つのハーバーに呼びかけてレースを開催している。本年はミニトン全日本レースを開催するとの発言があった。
- 23) 兵庫県セーリング連盟の川上評議員から、市やライオンズクラブが支援して、市民イベントと共催している。県体育協会から子供セーリング体験に補助あった。470 全日本を開催予定であるとの発言があった。
- 24) 奈良県セーリング連盟の安澤評議員から、東大寺ヨット部がNHKで紹介された。斑鳩町の池で、子供の試乗会も開催しているとの発言があった。
- 25) 和歌山県セーリング連盟の山本評議員から、ナショナルトレーニングセンター運営に協力しているとの発言があった。
- 26) 外洋内海の妹尾評議員から、ジュニアの参加も得て、舵杯を赤穂市で開催する。活性化委員会でメンバー増加を図るとの発言があった。
- 27) 鳥取県セーリング連盟の富田評議員から、県人口が少ないが、会員 100 名を目指す。ゴールデンウィークには高校生の大会を開催しているとの発言があった。
- 28) 広島県ヨット連盟の谷口評議員から、昨年は県連 60 周年記念行事開催した。市長がオ

リンピック誘致を公言しているが、市民は無関心である。今年全日本OPなどを開催するとの発言があった。

- 29) 山口県セーリング連盟の藤岡評議員から、国体リハーサルに向け今準備中である。本国体は特設のハーバーを用意して開催する。宿泊施設が併設されており、OPやFJのレースを行っているとの発言があった。
- 30) 愛媛県セーリング連盟の黒川評議員から、松山では堤防をかついで艇を出している。ジュニアの父兄が土地を購入し、艇庫を建てたおかげでベースができ、松山セーリングクラブを立ち上げたとの発言があった。
- 31) 高知県セーリング連盟の文野評議員から、NHKの龍馬伝は盛り上がっている。遊びのレースだが、龍馬カップを始めたとの発言があった。
- 32) 佐賀県ヨット連盟の松山評議員から、昨年のレーザー世界選手権の御礼があった。37年かかって、ヨット教室が市役所の中で認められたとの発言があった。
- 33) 長崎県セーリング連盟の最上評議員から、平成26年に国体を開催する。役員養成を進めている。今年はクルーザーの九州カップレースを開催するとの発言があった。
- 34) 熊本県セーリング連盟の本田評議員から、高校ヨット部が1校になった。ジュニアから大学・実業団までの一貫指導体制が大事であるとの発言があった。
- 35) 外洋南九州の宇都評議員から、火山ヨットレースはIRCに移行する。映画「海の金魚」が放映される。錦江湾にはマリナーがない課題が残っている。外洋団体の連携が必要であることから、話し合う機会を作っていただきたいとの発言があった。
- 36) 全日本学生ヨット連盟の杉山評議員から、各大学ヨット部も部員減少傾向だが全日本大会を開催している。本年インカレは蒲郡で開催するとの発言があった。
- 37) 日本ヨットクラブ連盟の中瀬評議員から、NPO法人化を目指している。江の島のEYCは恒例のノルウェーカップを今年はノルウェー大使を迎えて開催するとの発言があった。
- 38) 日本シーホッパー協会の九富評議員から、原点に戻ってレースの楽しむことを考えている。静岡県三保で開催する全日本では水族館でパーティーを行うとの発言があった。
- 39) 日本レーザークラス協会の福井評議員から、昨年ラジアルワールドの御礼があった。オリンピッククラスとなり、参加数が増えたとの発言があった。
- 40) 日本ドラゴン協会の鈴木評議員から、元オリンピック種目で80年経ったが、同船型で世界では2万隻ある。今年は西宮で全日本を開催するとの発言があった。
- 41) 東京ヨットクラブの平生評議員から、夢の島マリナーは17年経て200名のメンバーになった。マリンフェスティバルでは親子の参加で模擬ヨットレースを行った。昨年のスバル座カップは84艇が参加、ヘリコプターで撮影したことは講評であったとの発言があった。
- 42) シーボニアヨットクラブの才藤評議員から、昨年10月の台風で大きな被害があり、復旧中である。相模湾ヨットレースを行うとの発言があった。

- 43) 日本視覚障害者セーリング協会の秋山評議員から、JBSA は昨年 9 月に NPO 法人となった。横浜みなとみらいでレースを開催、ニュージーヨットクラブと交流した。2013 年に世界選手権を日本で開催するとの発言があった。
- 44) 日本 J24 協会の畠山評議員から、8 月スウェーデンで世界選手権が開催される。本年度から会長が交代するとの発言があった。
- 45) 日本テザー協会の山本新会長から、テザーワールドの御礼があった。次回はイギリスで世界選手権が行われるとの発言があった。

10.その他

- 1) 前田専務理事から、全国一斉マリンレジャーアンケート実行委員会から、「全国一斉マリンレジャーアンケート調査」の実施について報告があった。
- 2) 前田専務理事から、B&G 財団” Water Safety NIOOPON” 水の事故ゼロ運動推進協議会に連盟も参画するとの報告があった。
- 3) 前田専務理事から、映画「海の金魚」は、3 月九州、4 月東京でロードショーの予定との報告があった。
- 4) 鹿児島県セーリング連盟の大迫評議員から、情報の迅速化について意見があった。
- 5) 米澤顧問から、オリンピック強化特別会計予算は、補助金ごとに計上されているが、事業ごとの収支が不明であるため、事業ごとに分類して報告していただきたい。特別監査の必要があるとの発言があった。

以上、平成 21 年度第 2 回評議員会は、上記の通り同意ならびに承認されたことを確認し、議事録署名人は以下に記名・捺印する。

平成 22 年 3 月 14 日

議 長 畠 山 知 己

議事録署名人 末 木 創 造

議事録署名人 大 村 雅 一